



会報

松門

- ・松陰敬仰の気運醸成
- ・松陰精神の継承普及
- ・松陰教学の研究振興

○編集発行 財団法人松風会
〒753 山口市大手町2-18
山口県教育会館内 TEL 0839 221218

第一回松陰研修塾の修了を祝して



財団法人松風会

理事長 松 永 祥 甫

平成三年度を第一年次とする三年間に亘る松陰研修塾の第一回修了証書授与式を案内致しましたところ御来賓、講師先生方の御臨席を賜りました。特に講師先生方には三カ年間熱心な御指導を賜り将に研修塾の企てに画龍点睛を賜りました。併せて深甚なる敬意と感謝を捧げます。修了証書をお受けになりました皆様に対し衷心より御祝い申し上げます。

「孟子」の尽心章句の中で「君子に三楽あり、而して天下に王たるは与り存せず。父母俱に存し、兄弟故無きは、一の楽なり。仰いで天に愧じず、俯して人に作じざるは、二の楽なり。天下の英才を得てこれを教育するは三の楽なり。」とあります。孟子は人間を望ましいものに育て上げる教育を人として至幸至福の一つに位置付けております。さて松風会は松陰先生を崇敬し、松陰精神の普及振興を図り、これを現代に生かすことを目的として先生を顕彰、研究及び研修する事業を展開しております。創立されてより丁度二十年になります。尤も松陰先生に關しましては山口県教育会が夙に松陰精神の顕揚に努めて、実に貴重な松陰全集出版事業を初め、各種の研修、研究事業を展開されておられ、本会は、緊密な連係を採りつつ現在に至っております。

に触れ、先生の真骨頂を学び、現在に対応する活模範としてこれを生かす事業を策定致しました。それがこの松陰研修塾であります。

始め定員を三十名として呼びかけを致したところ、直ちに呼応された新進気鋭の士六十余名の参加を頂き、三年間に亘り毎年三回、一回の日程が三日間のこともありましたが概ね二日間、本日御臨席の講師先生方の御講義御指導の下に研修会或いは研究会を開催致しました。何分にも極めて御多忙な現職の方々であり、果して完全研修可能かと危惧致しましたところ、本日御出席の四十四名の方に終了証書をお渡しすることができました。悦びに堪えません。茲に重ねて衷心より敬意と祝意を表する次第であります。

三年間の研修、研究内容について付言致しますと、その主題は「吉田松陰の甦る道を求めて―松陰像の追究―」であり、内容は講師の講義講話、研究グループ相談協議、研究発表、研究視察などで何れも終始極めて熱心で時には龍虎相撃つの真剣さも感ぜられました。松陰教学の実動を期し得たものと自負致して

おる次第であります。

果して、提出致されました報告書に目を転じますと松陰の国際感覚と時代の認識、松下村塾の教育、杉家の家風、松陰の間観、処世観、松陰の教学精神、吉田松陰の家族観、現代社会はなぜ松陰先生を必要とするのか、松陰教学精神に学ぶこれからの教育への課題、その他意義深い課題を研究テーマとして、その研究の経過と今後の予定を極めて明確に記述されております。

願わくは修得されましたこの成果を基礎に一層の研鑽を積み、本山口県教育振興への燦然たる金字塔を樹立されることを只管祈念してやみません。些か述べて式辞と致します。

「松陰研修塾」開塾記念



平成3年6月29日 於山泉荘

祝 第一回松陰研修塾 修了者紹介

海外渡航にみられる松陰の志操

— 幕末動乱期における

理想と現実の相剋 —

前山口大学教育学部

附属山口小学校

美川町立河山小学校

福岡 正 昭

松下村塾の教育

徳山市立徳山小学校

小川 裕 之

宮部鼎蔵の魅力

— 松陰先生は宮部鼎蔵の

何にひかれたのか —

徳山市立岐山小学校

平川 和 俊

吉田松陰の性善説と教育的課題

徳山市立岐山小学校

三浦 章

獄舎問答についての研究

— 野山獄で松陰は何をしたか

他の刑者へ与えた影響 —

徳山市立岐山小学校

中村 佐智雄

教育者としての松陰の魅力とは

徳山市立岐山小学校

岡 賢治

松陰の国際感覚と時代の認識

下松市立公集小学校

三浦 龍 夫

松陰の生き方に学ぶ

— 今教育に必要なこと —

山口大学教育学部

附属光小学校

馬庭 清 志

吉田松陰を取りまく「寛容さ」

山口大学教育学部

附属光小学校

磯村 勇

松陰と学校教育

— 生徒指導の視点から —

前鹿野町立大潮小学校

新南陽市立

富田西小学校

田中 英 二

松陰と個が生きる

教育とのかかわり

前新南陽市立

福川小学校

新南陽市立

福川南小学校

水津 英 三

吉田松陰の指導性と

人材登用観について

新南陽市立

福川南小学校

小田 暢 克

松陰と自己教育力

— 松陰の門下生の育て方 —

鹿野町立大潮小学校

藤本 哲 城

杉家の家風について

防府市立中関小学校

水野 昭

松陰の人間教育と現代的教育

前小野田市立

須恵小学校

山口市立大内小学校

伊藤 博

吉田松陰憧憬の心理構造の究明

と現代教員とのイメージ差につ

いての研究

阿東町立亀山小学校

岡 輝 明

松陰の人間教育と

今望まれる教育

下関市立勝山小学校

古賀 雄 一

吉田松陰の人間観の考察

豊田町立豊田中小学校

安村 優

時事に関する松陰先生の

視点と行動

前豊浦町立小串小学校

豊北町立阿川小学校

西村 司

松陰の人間教育と

今望まれる教育

萩市立椿東小学校

築橋 研 二

椿東地区に残る松陰ゆかりの

史跡について

萩市立椿東小学校

服部 浩 二

児童が自ら松陰を調べる

パソコンソフトの開発

阿東町立宇田小学校

田中 正 己

名字説にみる松陰の教学精神

和木町立和木中学校

佐伯 公 夫

松陰の教育者としての

思想の変遷

大島町立大島中学校

河井 靖 夫

名字説にみる松陰の教学精神

平生町立平生中学校

岡本 憲 文

教育者としての松陰の魅力とは

山口大学教育学部

附属光中学校

岡本 昭 彦

吉田松陰の人間観

山口大学教育学部

附属光中学校

今津 広 幸

学習者・教育者としての松陰

山口大学教育学部

附属光中学校

岡田 郁 夫

吉田松陰の家族観

— 書簡にみる家族への思い —

山口市立大内中学校

伊 藤 隆



教育者としての松陰の魅力とは
— 一個を生かし育てる教育の
あり方 —

山口大学教育学部
附属山口中学校

池 田 廣 司



吉田松陰の時代認識

秋芳町立秋芳北中学校

前 原 隆 志



松陰教学精神と

これからの教育への課題

美祢市立伊佐中学校

篠 田 勝 彦



吉田松陰の思想と教育

萩市立三見中学校

松 本 芳 之



名字説にみる松陰の教学精神

前和木町立和木中学校

萩市立見島中学校

山 根 昌 浩



武士道と松陰

— 現代の教育に盛んな意気(志)
を甦らせるために —

前下関市立玄洋中学校

旭村立明木中学校

小 野 和 哉



現代社会は、なぜ松陰先生を
必要とするのか

長門市立通中学校

阿 波 浩 太 郎



松陰教学精神に学ぶ

— これからの教育への課題
— 学習者の内面への着目 —

前阿知須町立阿知須中学校

むつみ村立

和 田 征 文



松下村塾と適塾について

— 塾生の自己教育力の育成を
中心に —

山口県立

安下庄高等学校

流 田 正 士



松陰先生の草莽意識

山口県立

華陵高等学校

伊 藤 敦 夫



二つの「登波の碑」と松陰

前山口県立柳井高等学校

山口県立

防府高等学校

馬屋原 務 本



松陰の韻文作品

— 和歌を中心に —

前山口県立下関西高等学校

山口県立萩高等学校



山 根 博 司

松陰の処生観

— 家族・故郷という視点から —

前山口県立下関西高等学校

山口県立

徳佐高等学校

吉 野 祐 一



谷 三山から受けた影響

— 松陰を下田踏海に
かりたてたもの —

前阿武町立宇田中学校

徳山教育事務所

木 島 俊 太 郎



松陰の九州遊歴の意義

前阿東町立三谷小学校

山口県

生涯教育センター

阿座上 正 昭



第一回 松陰研修塾の歩み

一 平成三年

六・二九
於山泉荘

三 平成三年

一・三〇
於秋吉台少年自然の家



松永理事長あいさつ

講義 松陰先生の生涯

(河村太市先生)

講演 今あらためて松陰先生に
学ぶ (三輪稔夫先生)

協議 松陰研修塾の推進

二 平成三年

講義 松陰の生いたちとその背
景 (松田輝夫先生)

講義 松陰と兵学修業

(河村太市先生)

巡検 自転車、萩市内の松陰
関係史跡の調査研究

座談会 講義・巡検の成果等

明倫館兵学師範と松陰

(井町新熊先生)

九州遊歴と松陰

(三輪稔夫先生)

座談会 二日間の研修について

講義 諸国遊歴と松陰

発表 赤間関街道と松陰

講義 江戸遊学と松陰

講義 東北亡命と松陰

(松田輝夫先生)



河村太市先生



宇田中 木島俊太郎



井町新熊先生

講義 松下村塾の「戊午」



松田輝夫先生

講義 幽囚録・獄舎問答
(河村太市先生)
発表 海外渡航にみられる
松陰の志操
(附山小 福岡正昭)
五 平成四年
於萩青年の家
講義 松下村塾の「丁巳」
(井町新熊先生)

講義 野山獄と松陰
(松田輝夫先生)

見学 松陰群像・松陰記念館



萩市大字椿峠ヶ坂

講義 下田踏海前後と松陰
(三輪稔夫先生)
座談会 講義内容を中心に
四 平成四年
於萩青年の家

研究協議 自主研究の歩み

(阿知須中 和田征文)

研究協議 松陰教学と現代教育
発表 教えることのできない
教えたことがある



三輪稔夫先生

講義 死を賭けた証し「東送」



石原啓司先生

発表 徳山松陰会と歩み



岐山小 平川和俊

資料提供・情報交換・研究相談
研究テーマに基づく研究推進

七 平成五年
於山口県教育会館
講話 松陰の生きた時代
(石原啓司先生)

講話 松陰の学習観
(三見中 松本芳之)

発表 松陰の誠観とその変遷
(三見中 松本芳之)

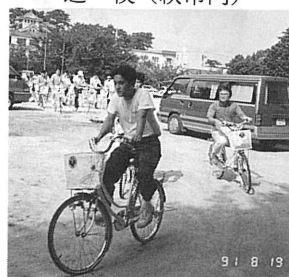
自由交換
研究計画の発表・受指導
研究グループの編成
六 平成四年
於山口県教育会館

研究相談



萩青年の家にて

巡 検 (萩市内)



萩青年の家を出発

生涯研修の立場から松風会の
主催する第二回松陰研修塾、松
陰教学研究会等へ参加を。更
なる研究の深化拡充へむけての
努力に対し、本会は協力する。

祈御健闘

： 今後は ：

行政関係二

修了式 修了者 四四名
小二二・中一五・高五

智恵を松陰に学ぶ
(三輪稔夫先生)

第一回松陰研修塾修了記念講演
廿一世紀を創造する

九 平成六年
於山口県教育会館

研究テーマに基づく研究推進

研究相談
テーマ別グループ相談

山口県教育会館第二研修室にて

発表 松陰における卓荦意識
(華陵高 伊藤敦夫)

講話 志を育てる教育
(河村太市先生)

八 平成五年
於山口県教育会館

初版本の「吉田松陰全集」を
ひもときながら、松陰先生の辞
を追ってみました。やはり原文
であつたと何か言いしれぬ迫力
のようなものを感じます。

今回を途中の経過点として、
今後も学習を進めていく所存で
す。(W氏の書簡より)

第二回 松陰研修塾 募集

— 松陰像の追究 —

1 平成六年六月開設

2 年間三回・三カ年在塾研修

3 県内小・中・高校等教職関係者、及び特に主催者の認める者、初心者大歓迎

4 中心テキスト(準備中)

仮称 脚注吉田松陰選集

人間吉田松陰の遺文に学ぶ

5 希望者は松風会へ御連絡を

『天下に機あり、機を知らざれば務を知ること能はず。時務を知らざるは俊傑に非ず。』

『静處に於て本心を認むる固より善し。又動處に於て本心を認むる更に善し。』

年頭に「吉田松陰入門」を読みかえておりまして、強く心に響いた一節です。今改めて何に向って何をしなければいけないのか、松陰先生に教えていただいたと思います。(S氏の書簡)